

令和8年度 学校目標

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	○幼稚園から高等部にか けた系統立てた指導の 実施により、社会で豊 かに生きていくための 基礎学力とコミュニ ケーション力を身につ ける。	①カリキュラムマネジメントを推 進し、学部間の系統的なつなが りを重視した教育課程の実施に 加え、自立活動におけるコミュニ ケーション手段の活用を充実 させ、幼児児童生徒の基礎学力 とコミュニケーション力の確かな 育成を図る。 教員の授業力を向上させる。 ②一人一台端末や学習支援ツール を活用した視覚的支援の充実 と、視覚的手がかりをいかした 授業づくりの専門性を発揮する ことで、個々の発達段階と課題 に応じたわかりやすい指導を実 践する。	①「個別教育計画 作成マニュアル・文例集」 を活用し、学部間の引継ぎを意識すると ともに、アセスメント結果を反映させた個別 教育計画を作成する。 年間指導計画の整理を行い、ねらいと手立 て、評価を明確にした指導と評価を図り、 教育課程全体の改善に繋げる。 自立活動の（手話・日本語・聴能・発音発 語）を相互に関連付け、授業や日常の教育 活動全体を通して、バランスを意識した指 導・支援の充実を図る。 言語指導に関する課題意識や研究の視点に ついて教職員間で共有し、研究内容や進め 方の検討を進めるとともに授業力向上につ なげる基盤づくりを行う。 ②学校全体でＩＣＴ機器の利活用を積極的に 取り入れ、視覚的支援を行うことでわかり やすい授業を実践する。	①個別教育計画に基づき、適切な目標設定 と手立てによって効果的な指導につなげ られたか。 研究授業や公開授業への参加を通して、 学部間の系統性を意識するとともに授業 力を向上させることができたか。 自立活動の４つの柱を意識し、子どもた ちの実態に応じた指導・支援ができた か。 言語指導に関する課題や研究の視点につ いて教職員間で共有が図られ、研究内容 や進め方の検討ができたか。 ②一人一台端末の活用に係る情報共有や好 事例の紹介、研修会の実施を通して、Ｉ ＣＴ機器の効果的な利活用が進み、教職 員全体の指導力の向上につなげることが できたか。 ICT 機器や学習支援ツールを活用し、視覚 的手がかりをいかした指導の工夫により わかりやすい授業を実践できたか。
2	幼児・児童・生 徒指導・支援	○それぞれの実態を十分 把握し、ニーズに応じ た指導・支援を行うと ともに、集団活動を通 して、協調性や思いや りの心を養い、自己肯 定感を高める。	①幼児・児童・生徒の健康と安全 を守り、一人ひとりのニーズに 応じた教育活動を推進する。 日々の子どもの様子を丁寧 に見守り、情報を共有する。 ②校内外の様々な集団活動を通し て互いの良さを認め合い、自他 を大切にする人権に配慮した指 導を進める。 地域とのつながりを強化してい く。	①学部・学年会及びケース会等を通して情報 共有を図り、支援方法について専門職を含 めたチームで検討し支援を行う。毎日の振 り返りを積み重ねていく。 情報モラルや性教育に関する指導の充実を 図る。 ②様々な縦割り集団の対話的な活動を通し て、相互理解を図るとともに、協調性や思 いやりを育む支援を行う。 交流活動の内容の充実や整理を行う。	①幼児・児童・生徒の見立てに基づく支援 を行い、健康と安全を守ることができた か。 会議設定を工夫し、関係職員が参加でき たか。 発達段階に合わせた情報モラルや性教育 に関する指導を行うことができたか。 ②様々な集団活動を通して互いの良さを認 め合い、相互理解を深める教育活動を実 践できたか。 幼児・児童・生徒の協調性や思いやりの 心を養うことができたか。
3	進路指導・支援	○幼児・児童・生徒・保 護者のニーズを受け止 め、職業観を育み、主 体的な進路選択ができ るよう指導・支援す る。	①幼稚部から高等部の各段階にお いて、個の適性やニーズに応じ た課題設定や体験的な学習を通 して、主体的な進路選択につな げる。 ②主体的な進路選択に必要な情報 発信を積極的に行い、充実さ せ、ニーズに応じた支援を行 う。	①各発達段階において、将来の進路選択につ ながる具体的な視点を設定し、見学会や実 習等の体験的な学習を積極的に推進する。 「卒業生の話聞く会」を継続して設定 し、生徒自らの将来像をイメージしやすく する。 幼稚部から高等部までのキャリア教育の充 実を推進していく。 ②進路だよりや学校ホームページ等を通し て、学習会や見学会等の情報を保護者に発 信し、より良い進路選択につなげる。 教職員全員が進路についての正しい知識を 身に付け、情報提供を行う。	①各発達段階において、将来の進路選択に つながる具体的な視点を設定するととも に、体験的な学習を通して、主体的な進 路選択に向けた意欲を育むことができた か。 ②保護者への情報発信を通して、連携して 進路支援に取り組むことができたか。
4	地域等との協働	○「ともに生きる社会」 の実現に向け、地域に おける支援教育に関す る専門性の向上を図る とともに、地域との協 働による活動を進め る。	①関係機関と連携し、支援の方向 性を共有して教育活動に活かし ていく。 ②センター的機能を発揮し、地域 への情報発信を充実させてニー ズに応じた支援を提供する。 ③交流及び共同学習等、学校外の 人との活動を通してコミュニ ケーション能力を高め、相互理 解を図る。計画的に実行してい く。	①病院や福祉機関等との情報交換を計画的に 推進し、支援ニーズの把握や支援策を共有 していく。 神奈川県聴覚障害者福祉センターとの情報 共有の機会をふやしていく。 ②学校や市町村教育委員会とも連携し、地域 で学ぼう難聴児の支援につながる情報発 信を行い、支援していく。 ③近隣の学校や地域の団体、施設等との交流 及び共同学習を通して、人と関わる機会を 積極的に設定し相互理解を深める。 特に地域との交流を発展させていく。	①関係機関と情報交換を計画的に行い、 ニーズに応じた支援を推進することがで きたか。 ②センター的機能を発揮し、地域で学ぼう 難聴児の支援につながる情報発信と支 援ができたか。 ③各学部のねらいや個々のニーズに応じた 交流及び共同学習の機会を通してコミュ ニケーション能力を高め、相互理解を深 めることができたか。
5	学校管理 学校運営	○安全で安心できる指 導・管理体制の整備を 進め、学校の危機管理 能力を高める。 ○教員のワークライフバ ランスを推進するため に、教員の働き方改革 を推進する。	①防災・防犯体制の強化を推進 し、対応マニュアルの整備や実 効性のある訓練を通して、教職員 の危機管理意識の向上を図 る。 ②子どもたちと向き合う時間を確 保するための方策を検討し、教 育活動の質の向上を図る。教職員 の働きがいより高める。	①保護者や消防署等、関係機関と連携し、実 際に起こり得る状況を想定した訓練等を実 施する。 ②ICT の利活用を進め、業務の効率化を図る 一方、授業準備や子どもたちと向き合う時 間を十分確保していく。	①関係機関と連携し、実効性のある訓練を 通して、教職員の危機管理意識の向上を 図ることができたか。 ②時間を有効活用し、教育活動の質の向上 が図れたか。教職員の働きがいにつなげ ることができたか。